

EU Indicators

欧州経済指標コメント：2月ユーロ圏消費者物価(速報)

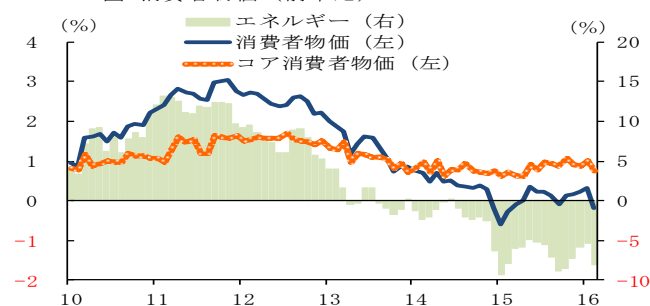
発表日：2016年2月29日(月)

～政策対応のハードルを上げる物価のマイナス転落～

第一生命経済研究所 経済調査部
 首席エコノミスト 田中 理
 03-5221-4527

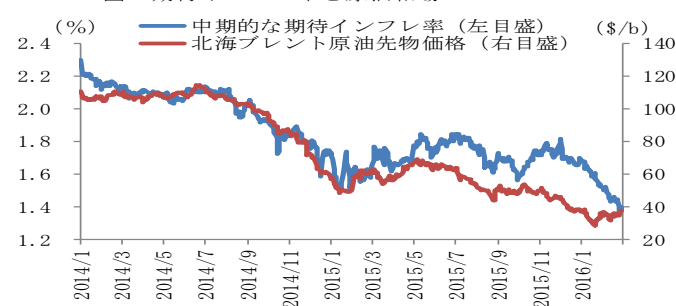
- 2月のユーロ圏の消費者物価の速報値は前年比▲0.2%と前月(同+0.3%)から大幅に悪化し、昨年9月(同▲0.1%)以来のマイナス圏に転落した。原油安でエネルギー価格(前月：同▲5.4%→今月：同▲8.0%)の下落率が再加速したほか、コア物価(同+1.0%→同+0.7%)と食料・アルコール・たばこ価格(同+1.0%→同+0.7)の上昇率が鈍化し、何れも昨年4月以来の水準に低下した。
- 発表済みの国別の消費者物価(ベルギーを除いてEU統一基準)は、ドイツ(同+0.4%→同▲0.2%)が昨年9月以来、フランス(同+0.3%→同▲0.1%)が同年3月以来、イタリア(同+0.4%→同▲0.2%)が同年4月以来のマイナス圏に転落したほか、スペイン(同▲0.4%→同▲0.9%)で下落率が大幅に拡大した。何れも原油安によるエネルギー価格の下押しが主因で、このこと事態は予想されたものだが、コア物価の上昇率鈍化は足許の期待インフレ率の悪化と相俟って警戒を要する。
- 足許で原油価格に底打ちの兆しも広がっているが、中期的な期待インフレ率は1.4%台を割り込み、史上最低水準を更新している。デフレ期待が定着しかねない状況で、ECBの追加緩和対応は不可避。ドイツ連銀総裁の抵抗が続いているが、政策提案を行なうプラート理事やイタリア/フランス中銀総裁の最近の発言は何れも追加緩和を示唆。ただ、預金金利の大幅な引き下げは銀行収益圧迫の副作用があり、量的緩和の強化や見直しにどこまで踏み込めるかも不透明。3月10日の理事会を控えての物価のマイナス再転落で、市場の期待値が上がってしまったとすれば、ECBは難しい対応を迫られる。

■ユーロ圏：消費者物価(前年比)



注：コア物価は食料・タバコ・アルコール・エネルギー除く
 出所：Eurostat

■ユーロ圏：期待インフレ率と原油相場



注：期待インフレ率は5年先5年物スワップ金利より計算
 出所：Bloombergより第一生命経済研究所が作成

■ユーロ圏の消費者物価(%)

	2015				2015					2016		
	1Q	2Q	3Q	4Q	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
消費者物価 (前期比)	-0.2	0.5	0.0	-0.1	0.0	-0.1	-0.1	0.1	-0.0	-0.2	-0.2	-
消費者物価 (前年比)	-0.3	0.2	0.1	0.2	0.2	0.1	-0.1	0.1	0.1	0.2	0.3	-0.2
コア消費者物価 (前年比)	0.7	0.8	0.9	1.0	1.0	0.9	0.9	1.1	0.9	0.9	1.0	0.7
食料/アルコール/たばこ (前年比)	0.3	1.1	1.2	1.4	0.9	1.3	1.4	1.6	1.5	1.2	1.0	0.7
食料 (前年比)	-0.1	0.8	0.9	1.3	0.5	1.0	1.2	1.4	1.3	1.0	0.7	-
アルコール (前年比)	0.8	0.8	0.7	0.7	0.8	0.8	0.6	0.5	0.9	0.8	1.0	-
たばこ (前年比)	2.6	3.1	3.4	3.0	3.5	3.5	3.3	3.1	2.9	2.9	2.7	-
エネルギー (前年比)	-7.7	-5.3	-7.2	-7.2	-5.6	-7.2	-8.9	-8.5	-7.3	-5.8	-5.4	-8.0

注：消費者物価の前期比は季節調整後。コア消費者物価は食料・アルコール・たばこ・エネルギーを除く。出所：Eurostat

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。